

平成19年度 広島市立広島特別支援学校 第2回提言部会・評価部会・学校協力者会議概要

1 日 時 平成20年2月25日(月) (10:00~12:00)

2 場 所 広島市立広島特別支援学校 校長室

3 内 容

(1) 学校より平成19年度学校評価結果についての説明

(2) 意見交流

【学校経営計画の軸について】

学校経営計画の領域、「新たな学校づくりの推進」の中期目標に4つの軸(建替えの基本構想に掲げられた「都市型」「総合型」「学校、地域の特別支援の教育センター」「開かれた学校」)があるが、それが学校経営計画の他の4つの領域「学力の向上・豊かな人間性の育成」「専門性の向上」「教育環境の整備」「家庭・地域社会との連携」にそれぞれ結び付けられるのではないかと思う。

【地域について】

地域の定義は統一しておく必要がある。また、地域を変えて行く取組やお互いに学び合ったり変わったりしていくことが大切になる。

【連携について】

学校経営計画の中に連携ということばがたくさん出ているが、連携の意味を考える必要がある。連携の結果は1+1が3になって欲しい。

連携は情報の共有化にとどまっていることが多い。それすら難しいことがあるが、もう一步踏み込んで一緒に何ができるか役割分担を考えていかなければならない。「連携から運動に」が必要。

連携は「学びあって変わり合う」に結びつかないと。専門家に聞いて終わるのではお互いに学びあう状態になっていない。

連携のための記録のつけ方については、観点が違い記録の仕方がまちまちであると資料が残っても使えるものとしてはどうか。どういう視点で何を記録したらよいのか。記録のとり方の研修も必要。

先生方は頑張り屋が多く自分で処理しようとする傾向にあり、大きな問題になってから他の機関と連携をとることが多い。問題が小さなおきから他の専門家との連携をとることが必要。全部自分で責任をかぶらなくていい。最初に問題に気づくのは先生方であり、他の機関としっかり連携をとっていく必要がある。

連携は人との関係がベースになる。

【専門性について】

長期に勤めていると、惰性で仕事をする傾向になりやすいため、新しい刺激が必要となる。

授業研究会等よくがんばっておられる。しかし、授業公開だけでなく普段から学部・学年単位で授業を見合ったり、ビデオ等で自分の授業を見たりして授業を振り返ることが大切。

【センター的機能について】

センター的機能については分掌として位置づけることが必要。専任もいるだろう。

学校の外だけでなく校内支援もセンター的機能であろう。力量のある教員を育成しながらクラスを超えた支援体制を作り、それからその先生が外に出て行くことも考えられる。

また、そうしたアドバイスを受け入れる土壌を作っていくことが必要となる。授業研究会等を開催するだけでなくこういった校内支援体制づくりや支援を受け入れる土壌づくりが核になっていくのではないか。

【学校の活動の精選について】

我々は活動の目的や目標を忘れがちで、活動だけが頭に残りやすい。何のためにするかが一番大切なことではないだろうか。